

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

<b>事業名</b> 北近畿豊岡自動車道 一般国道483号 八鹿日高道路 <small>ようかひだか</small>	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局					
<b>起終点</b> 自：兵庫県豊岡市日高町久斗 <small>とよおか ひだか くと</small> 至：兵庫県養父市八鹿町高柳 <small>やぶ ようか たかやなぎ</small>	<b>延長</b> 9.7km						
<b>事業概要</b> 一般国道483号北近畿豊岡自動車道は、豊岡市を起点とし丹波市に至る延長約70kmの高規格幹線道路であり、兵庫県北部の但馬地域と丹波地域を直結し、さらには京阪神都市圏との連結を強化し、地域の活性化を支援する自動車専用道路である。 八鹿日高道路は、日高豊岡南道路とともに、豊岡市上佐野～養父市八鹿町高柳をつなぐ15.8kmの道路で、地域の活性化、災害時等の交通確保、第3次救急医療機関へのアクセス向上、交通混雑の緩和、交通安全の確保を目的としている。							
H18年度事業化	H17年度都市計画決定 (H-年度変更)	H22年度用地着手	H24年度工事着手				
全体事業費	690億円	事業進捗率	約12%	供用済延長	—		
計画交通量	16,900台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.4	総費用 (残事業)/(事業全体)	501/634億円	総便益 (残事業)/(事業全体)	900/900億円	基準年 平成25年
	(残事業)	1.8	事業費 維持管理費	437/570億円 64/64億円	走行時間短縮便益 走行経費減少便益 交通事故減少便益	718/718億円 123/123億円 59/59億円	
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】 交通量 : B/C=1.2~1.6(交通量 ±10%)      【残事業】 交通量 : B/C=1.5~2.1(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.3~1.5(事業費 ±10%)                      事業費 : B/C=1.7~2.0(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.3~1.5(事業期間±20%)                      事業期間 : B/C=1.7~1.8(事業期間±20%)							
<b>事業の効果等</b> ①物流の効率化 ・舞鶴若狹自動車道、播但連絡道路等と連携した広域ネットワークを形成することによりアクセスが向上し、地域経済の基盤形成及び物流の効率化が期待できる。 ②地域の活性化 ・但馬地域には年間約840万の観光客が訪れ、そのうち半数以上が県外客の傾向であることから、所要時間が短縮してアクセスが向上することにより、観光産業の活性化が期待できる。 (城崎温泉、湯村温泉、竹野浜海水浴場、コウノトリの郷公園他：観光入込客数：約836万人/年(H23)) ③災害時等の交通確保 ・北近畿豊岡自動車道の整備により災害時等の防災拠点への人員・物資輸送の交通確保を図る。 ④第3次救急医療機関へのアクセス向上 ・南但消防本部朝来消防署から但馬地域唯一の第3次救急医療機関である豊岡病院までの搬送距離は約35kmもあり、現況では搬送時間に約50分かかかるが、整備後は約30分に短縮される。 ・北近畿豊岡自動車道の整備により第3次救急医療機関へのアクセスが向上し、安全で安心できる生活の確保が期待される。 ・朝来市～公立豊岡病院への所要時間が短縮。(約48分→約45分) ⑤交通混雑の緩和、交通安全の確保 ・交通の分散により、冬季の積雪による渋滞緩和や歩行者等の交通安全確保が期待。 ⑥特定重要港湾へのアクセス向上 ・豊岡市～神戸港への所要時間が短縮。(約146分→約131分) ⑦日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・豊岡市～朝来市への所要時間が短縮。(約49分→約46分)							
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>							

地域から頂いた主な意見等：

- ・但馬自治会が「但馬地域の振興整備に関する現状説明会」で北近畿豊岡自動車道の早期整備を要望（平成25年7月24日 北近畿豊岡自動車道の整備を要望）
- ・北近畿豊岡自動車道建設促進期成同盟会、但馬・地域高規格道路推進協議会が「北近畿豊岡自動車道早期実現促進大会」及び「道路関係団体合同要望」で北近畿豊岡自動車道の早期整備を要望（北近畿豊岡自動車道早期実現促進大会：平成25年7月28日北近畿豊岡自動車道の整備を要望）

兵庫県知事の意見：

一般国道483号北近畿豊岡自動車道（約70km）は、舞鶴若狭自動車道、播但連絡道路及び山陰近畿自動車道と高速道路ネットワークを形成することにより、環日本海地域と関西都市圏の連携・交流を強化するとともに、県内唯一の高速道路空白地域を解消する極めて重要な道路である。

また、但馬地域唯一の3次救急医療機関である公立豊岡病院へのアクセス性向上や災害時など緊急時における輸送路の確保など、医療や防災面においても大きな効果を発揮する道路であり、先の東日本大震災を踏まえ、北近畿豊岡自動車道の早期整備に対する期待は一層高まっている。

こうしたことから、八鹿日高道路、日高豊岡南道路の早期供用、さらには現在都市計画決定に向けた環境影響評価の手続き中の豊岡道路の早期事業化をお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道483号八鹿日高道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

北近畿豊岡自動車道のうち、八鹿日高道路の南側に位置する和田山八鹿道路が平成24年11月に開通し、並行する国道312号の交通量が約3割増加した。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成18年度に事業化し、平成22年度に用地着手を始め、用地進捗率：約85%、事業進捗率：約12%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、平成28年度の暫定2車線開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

